

## ガス会社で経験した多くのこと ー石炭から天然ガスへ、ガスから電力へー

神田 稔久

### <略歴>

\* 北大・応用化学科 (1968 年卒)

東京ガス (株)	扇島工場長 (1998-2001)
(株) 扇島パワー	取締役社長 (2004-2008)
東京ガスエンジニアリング (株)	顧問 (2008-2009)
横浜家庭裁判所	家事調停委員 (2009- )

### 経験したこと

生産管理、環境管理、工場建設、発電所建設、プロジェクトエンジニアリング  
大口営業、国内外合弁会社支援・管理、業界団体出向

### <仕事を振り返って>

大学の石炭研究の延長線の積りで入社したものの、エネルギー革命の真ただ中に放り込まれ、矢継ぎ早の設備の改廃に巻き込まれました。

そのような中で、走りながら、石炭からオイルを、オイルから天然ガスを学びました。当時は、エンジニアリング会社の勃興期でもあり、様々な事を自社技術で行う時代でもありました。

その間、業界団体への出向や海外事務所駐在も経験しました。

最後は、エンジニアリングの経験を活かした発電所建設や海外プラントエンジニアリングを行い、卒業となりました。

その後は、“一身を二生に生きる” 思いで、裁判所の家事調停委員として、家庭内の様々な紛争の調停を行っています。

### <講演要旨>

大学で学んだことは、直接には業務に活かせないことが多いが、基本・基礎技術は終生役に立ちます。

会社での経験は、その時々では必ずしも繋がりを持たないかも知れないが、経験を積み重ね意識することで、体系化されます。また、経験を積み重ねることと共に、過去に学び将来を考えること (温故知新) は、凡人には実行しやすい技術の蓄積方法だと思います。

“現場では勉強ができない” という懸念は、見方や考え方を変えれば、“現場にこそ材料がころがっている” に変えることができます。

就活は終わりではなく始まりです。就活後には、自分の頭で考えること・会社人のまえに社会人であること・生涯学習が大切と考えます。